

景観形成区域の取組進捗状況（領家）

1 景観形成区域に関する協議の場

領家公民館（調整中）

2 行川地区のコミュニティ組織の概要

（1）行川コミュニティ計画推進市民会議

- ・設立：平成13年12月設立
- ・会員数：46人（令和2年1月現在）
- ・コミュニティ計画を実践する住民主導の自主的な組織として結成され、地域の活動を主導してきた。
- ・活動内容：ホテルの保全活動、健康講座の開催、「よこせと海辺のにぎわい市」への農産物の出店等
- ・近く事業をなめがわ連携協議会に引き継ぎ、解散する予定

（2）なめがわ連携協議会

- ・令和元年6月設立
- ・会員数：15人（令和2年1月現在）
- ・所属団体：地区公民館、行川本村公民館、行川自治体、行川コミュニティ計画推進市民会議など
※領家公民館は所属していない。
- ・活動内容：行川夏祭り（共催）、敬老会（共催）、広報誌の発行等

（3）行川地区公民館

- ・所属：行川自治会、行川下組、行川吉井公民館、高知市針原公民館、上里公民館、領家公民館、行川本村公民館
- ・活動内容：行川夏祭り（主催）、敬老会（主催）

（4）領家公民館

- ・所属：領家地区の大半の世帯
- ・年に1回総会を開催
- ・2か月に1回程度、委員会を開催
- ・活動内容：草刈り、親睦会等

3 コミュニティ計画

<行川コミュニティ計画>

- ・平成9年策定
- ・キャッチフレーズ：交流人口で地域おこし
- ・まちづくりの体系
 - 1 大河内橋周辺の親水化：仮設トイレ・水道の設置等
 - 2 城山の整備：遊歩道・展望台の整備、植樹・植栽等
 - 3 貸農園の開設：貸農園づくり、接道の整備等
 - 4 飲料水の整備：高い山へのポンプアップによる配水

4 キーパーソンとの協議

（1）令和2年1月24日（金）13：10～14：10

領家地区のキーパーソン1名と協議を行った。以下、キーパーソンの意見。

①地域の現状

- ・領家は、行川地区のなかでは積極的にまちづくりの活動をしていき地域である。しかし、10年後には領家の世帯数は半分になると予想している。（現在は約33世帯）
- ・候補地にある棚田は、耕作する人がおらず、中山間地域直接支払制度でなんとか維持している。
- ・棚田を維持していくのはしんどい。
- ・昔、地元の学校に声をかけて芋ほりをしていたこともあるが、行川学園が地域外の生徒が増えたため、なくなった。
- ・連携協に領家は入っていない。1月の総会で話し合ったが、様々な意見が出され、とりあえず現状維持とすることにした。
- ・景観形成区域については、領家公民館のなかで話し合うのがいいのではないかな。

②景観形成区域の取組に前向きになれない理由

- ・景観形成区域として指定されることは誇らしことだが、指定区域を守っていくことはしんどい。地域の力が落ちていかにいかに何か取組みをしなくてはいけないと思うが、取組が負担である。地域で話してみるが、推進する方向にはならないだろう。
- ・昔、自然にやっているとき（＝景観を守ろうという意識ではなく、生活のために畑を耕し、農作物を作っていたころ）は、問題なかった。
- ・地域のなかにもいろいろな考えの人がいる。みんなの考えをまとめるのは難しいのではないかな。

③外部からの来訪者について

- ・以前、地域外の人が畑をやっていたときに、無農薬で農作物を栽培して、隣の畑の人が害虫被害にあうというトラブルがあった。
- ・農作物をイノシシに食べられる被害が深刻なので、地域外からきて畑をやってもらうにしても、イノシシの餌を作るようなものではないかな。

（2）令和2年1月25日（土）

領家公民館委員会

- ・指定に対して、前向きな意見は出されなかった。
- ・指定に伴う活動の部分を不安視されている。

（3）キーパーソンとの協議によって明らかになった課題

- 住民は、景観形成区域に指定に伴って（もしくは指定前から）取り組む「保全と活用のサイクルの継続を目指した取組」に対して、不安や負担を感じている。

5 今後の方向性

- 景観形成区域は、下流域の市民が上流域に貢献できる仕組みを作ろうとするもので、候補地の住民に負担をかけようとするものではないことを共通認識とすることで住民の不安感や負担感を取り除くことを目指し、引き続き対話を行う。
- 住民の主体性を引き出すため、効果を実感できる取組に向けた対話を行う。

30 領家地区



【候補地の範囲】

○行川川上流域では、複数の谷筋に大規模な石垣の棚田が拓かれている。当候補地は、そのなかでも特に規模が大きいものを選び、県道から容易に見渡せる範囲を周辺の宅地を含めた範囲を想定するもの。

【現状の評価】

- 棚田の下部に休耕地が目立つ。景観保全上、耕作の維持と棚田の管理に課題があると思われる。
- 景観保全に関連する地域活動は未確認であるが、道路沿いの石垣の補修が空石積によって行われた形跡が見られる。棚田の保全に配慮が行われている可能性がある。
- 石垣保全のマンパワー確保については、徳島県上勝町で展開中の「石積み学校」のような仕組み（技術を持つ人・習いたい人・直して欲しい田畑を持つ人の三者をマッチングした講座を開催し、技術継承と修復ボランティアを同時に行う）によって実現できる可能性がある。